

低利用・未利用資源について開発調査センターの取り組みをご紹介します

- 青森県の沖合底びき網漁船を用船して、青森県太平洋海域で調査を実施し、最大で1日10トン近い深海性の低利用・未利用魚が漁獲されることがわかりました。
- 兵庫県の沖合底びき網漁船を用船して、大和堆海域で低利用のドスイカ資源開発に係る調査を実施し、採算ベースに近い、最大で1航海45トンの漁獲を得ました。

開発調査センターは、水産業に関する内外の研究成果や新たな技術を社会実装するため、実際に稼働する漁船等を用いて実証調査を行っています。

この度、低利用・未利用資源の利用拡大に向けた取り組みについて、第26回「ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」でセミナー講演（水産研究・教育機構特別セミナー① 2024年8月21日11:30～12:15「深海性の低・未利用魚介類をもっと身近に」）を行います。

セミナー講演では、下記1）、2）の沖合底びき網漁船による低利用・未利用資源を対象とした試験操業や販路拡大に係る2つの調査の成果をご紹介します。また、1）の調査については、試作した乾き物の試食を含めたブース展示（小間番号B-70）も行います。

1）青森県太平洋海域でソコダラ類やゲンゲ類を対象に調査

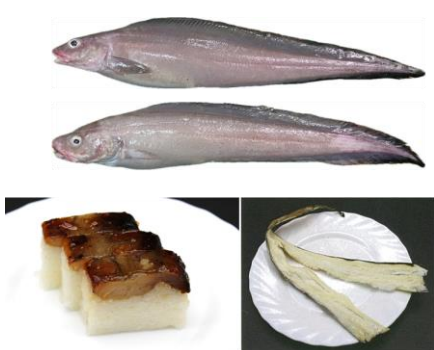
用船：青森県八戸機船漁業協同組合所属の第六十二新生丸、第五十五興富丸

期間：令和5年4月1日～5月31日、令和6年3月15日～6月15日

2）日本海大和堆海域でドスイカを対象に調査

用船：兵庫県浜坂漁業協同組合所属の幸榮丸、第一幸榮丸

期間：令和6年6月6日～7月12日



ゲンゲ類とその試作加工品



冷凍ブロック



ドスイカ製品試作品
(株式会社フーディソン提供)

本件照会先: 国立研究開発法人 水産研究・教育機構

開発調査センター

下光利明・日高浩一・大重洋敬・加藤慶樹・木宮隆 TEL:045-277-0184